

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102690
法人名	有限会社 優寿の里
事業所名	グループホーム 優寿の里
所在地	松山市堀江町甲207番地1
自己評価作成日	平成25年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 2 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営者、ご利用者とそのご家族、スタッフとそのご家族、みんなが支えあって「一つの大きな家族」となり、「生きること」に向き合いながら共に生活をし、学び、楽しく・温かく・安心のできる「家庭」を築くことを目標にしています。スタッフは、認知症ケアのプロとしての意識と向上心を持ち、「本人本位」という点を大切にしながら実践し、日々のケアがより質の高いものへと進化するように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は職員の笑顔が絶えない明るい雰囲気、利用者は職員と馴染みの関係を築き家庭的で穏やかな日々を過ごしている。職員は利用者本位を心がけた利用者のペースに合わせたケアに努めており、家族からの信頼を得ている。事業所の協力医と24時間体制で連携しており、毎月2回の往診を行っている。また、看護師が中心となり利用者の受診や健康管理をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 優寿の里

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 堀 恵子

評価完了日 平成 25 年 2 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念と基本方針を各所に掲示し、職員全員で共有、実践することにより、地域の中で「その人らしく」暮らし続けられるよう努めています。 また、困難な課題などで立ち止まったときには、一度理念に立ち返り、課題の解決にあたっています。</p> <p>(外部評価) 事業所の基本方針に沿って開設時に作成した理念を玄関やリビングに掲示している。毎月の職員会議で理念を振り返りケアを実践している。新任職員には、入社時に理念の説明をしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 運営推進会議や同じ地域のご家族より、地域行事の情報を頂き、出来るかぎり、参加できるよう努めています。 また、利用者の体調や気候等を考慮し、近隣を散歩したり、地域の行事や店舗に外出することにより、利用者が地域から孤立することのないよう努めています。</p> <p>(外部評価) 周辺には工場が多く、住宅が少ないが家族や職員の情報から祭りの神輿を事業所に入れてもらったり町内運動会に参加している。日頃から事業所周辺の散歩時に出会った子供や工場の職員と挨拶を交わしている。事業所職員の中学生の子供と友人と一緒に訪問し交流している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 面会時のお話や、運営推進会議において、日々行っている活動内容を報告し、認知症の方の理解や支援方法について、ご理解いただけるよう努めています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 日頃の活動内容の報告と共に、ご家族から広く意見を 頂き、市役所や地域包括センターの方、職員で意見を 出し合い、サービス向上へとつなげています。	参加者が固定的であるため事業所の地域密着型サー ビスとしての役割を果たすために、地域の多様な立場の 方の参加依頼を積極的に行うことが望まれる。また、 議題に外部評価のことを取り入れるなど、地域住民に 理解と支援を得られるよう取り組むことが望まれる。
			(外部評価) 市職員、地域包括支援センター職員、利用者と家族等 の参加を得て、日時や議題を工夫して2か月に1回開 催している。家族から地域行事の情報を聞いたり災害 について意見交換を行い、サービスの向上に活かして いる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議を中心に、日々の活動内容を報告し、会 議後には報告所を郵送することにより、市町村担当者 との協働関係を築いています。 また、必要に応じて相談にのって頂き、適切なアドバ イスを頂いています。	
			(外部評価) 運営推進会議に参加をしてもらい顔馴染みの関係と なっており、事業所の現状や取組みを理解してもらっ ている。利用者等の相談を行うなど協力関係を築くよ う取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会等を通じて、身体拘束の内容や弊害を職員全員 が正しく理解し、身体拘束を行わないケアを目指して います。愛媛県のホームページなども資料として利用 しています。	
			(外部評価) 身体拘束について内部研修を行うなど、職員は正しく 理解している。出入口にはセンサーをつけ、日中は玄 関の施錠をせず身体拘束をしないケアに取り組んでい る。隣接する24時間稼働している工場の職員の協力 をが得るなどして、外出する利用者の安全を確保して いる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について、職員会や勉強会で話し合いを行い、些細なことでも見過ごすことの無いよう早期に発見し、防止する努力をしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) パンフレットを入り口に置き、必要に応じて活用できるよう支援しています。 また、必要と考えられる利用者の方については、個別に相談し、関係各所への橋渡しを行っています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者の方やご家族へ、様々な不安や問題点について話し合いを持ち、御納得いただいた上で、契約していただいています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議、家族会の場を含め、日頃から気軽に意見、不満、苦情を言える関係づくりを心がけ、反映させています。その御意見や御要望を積極的に引き出すことができるよう、面会時には必ず近況やホームの取り組みについて報告させて頂き、率直な意見を頂けるよう働きかけをしています。	
			(外部評価) 運営推進会議や訪問時に利用者や家族からよく意見や要望が出されており、それを運営に反映している。反映された内容については、家族との連絡帳に記録し報告している。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) いつでも気軽に意見を出していただける様な関係を作り、出された意見については、早急に検討し、取り入れるように努めています。 また、職員会議、ミーティング、連絡帳などでも意見を交換し運営へ反映させています。	
			(外部評価) 代表者と管理者は、毎月開催の職員会議に出席して、職員から出される意見や要望を聞き取り、運営に反映させている。職員からはよく意見や気づきが出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の能力や努力、勤務状況について常に把握し、評価を行っています。また、職員が働きやすい職場であるように、職員個々の事情も考慮してシフトをつくり、諸事情にできる限り対応できるように努めています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員会、勉強会、定期購読の雑誌（おはよう21）、インターネットの情報、新聞・テレビなど多量の資料の中から勉強し、実践に生かしています。また、日々のケアを職員間で密に話し合うことにより質の向上を目指しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 夏祭りなどの行事への参加や研修会、事業所連絡会への参加を通じて、地域のグループホームや医療福祉関係者とのネットワークを構築しています。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者やご家族から、現状と入居後の課題についてよくお話を伺い不安の解消に努めています。 また、新たな利用者に対しては、環境の変化から不安や恐れ的心情を理解することにより、積極的な声かけを行い、信頼関係の確立と安心の出来る生活の場の提供を、重点的に支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご入居前に、ホームの見学をして頂き、ご家族の不安や想いをよく聞かせて頂くことにより、初期の段階からより良い関係作りに努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス利用開始前に、利用者やご家族からよくお話を伺うことにより、必要とされる支援を検討しています。また、その場合に他のサービス利用が検討される場合には、提案、橋渡しを支援しております。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者一人ひとりの人格・歴史を尊重し、理念にもある共に生きる姿勢を大事にしています。ゆったりとした時間の中で、家事や歌、昔の話を通し、本人の経験を学ぶ場を作っています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入居後もご家族と共に利用者の方を支え、今まで以上のより良い関係を築けるように努めています。また、面会時には日頃の状況を報告し、共に課題について検討していただくことにより、本人を共に支えられるよう努めています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の方のこれまでの生き方を大切にし、利用者の望む暮らしが継続できるよう、様々な角度から情報収集し、ケアに生かすように努めています。また、利用者の記憶の中にある、なじみの場所への外出支援を行ったり、ご親戚や知人などの訪問や電話等でのやりとりもあります。 (外部評価) 友人や知人に訪問してもらったり、電話や手紙での連絡が取りあえるよう支援している。馴染みの美容院やスーパーに家族の協力を得て出かけるなど継続的な交流ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの時間を大切にしながら、レクレーションや行事等を通じて利用者同士の関わり合いを支援しています。 また、日常においても、入居されている方同士、声を掛け合い、出来る所は手伝う場面が多くみられます。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても、関係性の継続が必要と考えられる場合には、電話や訪問等により、関係を断ち切らないように努めています。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の会話の中や、ちょっとした訴えの中から利用者の要望を捉え、職員間で情報の共有を行い利用者本位のケアに努めています。 要望の訴えの困難な場合には、利用者やご家族の立場に立ったケアを心がけています。 (外部評価) 生活のかかわりの中でよく声かけをしたり、入浴時など利用者の会話の中で思いを把握するように努めている。家族から得た情報と合わせて、利用者の意向や習慣などを伝達帳に記録し、職員はそれらを共有して、無理をしないよう利用者本位の支援となるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人からの聞き取りやご家族からの情報提供により、今までの暮らしを把握することに努めています。 また、日常の生活や、昔の経験・記憶を話して頂くことにより、これまでの暮らしを把握できる努力を行っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者個々人の「できる力」を暮らしの中から発見し、日々のケアに活かしています。 また、ミーティングや職員会、日常の記録等により、利用者一人ひとりの現状を職員全員が把握しています。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ケアマネージャーを中心とし、本人・ご家族の意見を取り入れた介護計画を作成しようと努めています。また、職員会議やケース会議により、意見やアイデアを取り入れ、利用者の現状に即したケアを柔軟に行えるよう努めています。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族から聞いた意見や要望をもとにアセスメントし、担当者会議を行い介護計画を作成している。毎月のモニタリングを実施し、身体状況変化時や3か月に1回計画の見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 気付きや工夫の情報を連絡帳や、ミーティング・職員会議等を通じて共有することにより、その時に合った介護計画を立てられるようにしています。また、必要な場合には、ケース会議を行い、個別のチェックリストを作成することにより、情報の一覧化と共有を図っています。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者やご家族の話をよく聞き、その時々に応じた柔軟な対応に努めています。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 施設近隣にある地域資源を把握し、協力を得られるように努めています。また、利用者一人ひとりの体調や残存能力を把握し、できる限りそれを発揮できるような地域資源とのかかわりに努めています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 医療機関、訪問歯科医院等と連携をとっています。 24時間体制で緊急時には指示を仰ぎ、適切に対応し てもらえる体制を構築しています。 また、利用者のご家族に相談、説明しながら、専門医 や総合病院で定期受診の為の支援をしています。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望を大切に、眼科や皮膚科等へ家 族の協力を得て受診しており、結果を記録している。 毎月2回の協力医の往診があり、受診結果を把握し、 適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 連携医の担当看護師の方に、日常の健康管理・医療活 用の支援をして頂いています。 また、勉強会等で得た医療的知識や日々のケアを通じ て気づいた情報を、早い段階で医療との連携につなげ る努力を行っています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、利用者が安心して治療できるよう、医療 機関との情報の共有に努め、早期退院につなげられる よう医療機関や利用者・ご家族と退院計画の相談を 行っております。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご家族、かかりつけ医、管理者、ケアマネージャー等 と常に話し合いを持ち重度化、終末期に向け全員で方 針を共有しています。	
			(外部評価) 入居時に、事業所の看取りの方針を説明している。重 度化した際には、繰り返し医師を交えて話し合いを行 い、利用者や家族の意向を尊重している。過去に2人 の看取りをした経験があり、利用者の個別のマニユ アルを作成し支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 各所に急変時や事故発生時の初期対応を掲示し、非常事態にも慌てることなく対応できるよう努めています。また、避難訓練時等に対処方法について検討しています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年二回の避難訓練を行っています。職員全員で避難場所を確認し、ラジオや非常食等の備蓄品の準備を行っています。また、日頃から近隣との関係を密に取り、非常時には協力し会えるよう交流を図っています。	
			(外部評価) 事業所には、スプリンクラーや火災報知器、通報機を設置しており、緊急時の連絡網を作成している。年2回防災避難訓練を実施し終了時には反省会を行っている。災害に備え、水や食料などを備蓄している。利用者一人ひとりの写真つき個人ファイルを作成し、24時間稼働の隣接する工場に災害時の協力を得ている。	災害に備え、昼夜を想定した自主的な避難訓練を計画的に行うことが望まれる。また、運営推進会議で地域の自主防災組織の有無を確認することが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人のプライバシーには十分に注意し、言葉かけや対応記録の取り扱いに十分な配慮を行っています。また、個人情報に関しても、使用する場合には同意書と共に個人と特定できないようにしています。	
			(外部評価) 書類の管理を徹底しており、議事録の個人名についても特定できないように配慮している。利用者には人生の先輩として接し、トイレ誘導時及び入浴時には誇りやプライバシーを損ねないよう気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活の中から本人の要望、希望を見つけ出し、出来ないことをあきらめえるのではなく、支援により出来ることへの発見に重きを置いています。本人の意思の尊重、希望に沿うような働きかけ、力に合った説明を支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人らしい生活を送れるよう、職員の都合よりも、利用者の希望を優先して支援しています。それぞれの残存能力に合わせ、一人ひとりのペースで、ゆっくりと柔軟な対応が取れるよう支援しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着替え支援と共に、整容に関するチェックリストを使用し、身だしなみには十分に配慮しています。散髪等も本人の望む時期、場所等についても支援しています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者個人個人の好き嫌いを把握し、野菜を中心としたバランスの良い食事内容を心がけています。また、食事は個々に合わせた支援を行い、準備、片付けなど出来る範囲で共用して頂いています。ホットプレートを使った料理等をし、一緒に楽しめる場を作っています。	
			(外部評価) 畑の収穫物やいただき物など旬の野菜を、利用者と一緒に調理し食事をしている。利用者の好みを取り入れて誕生日や行事ごとにメニューを工夫している。毎月の体重測定と半年ごとの血液検査を目安として、栄養が偏らないように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 旬の野菜を中心とする食事を提供し、多くの種類を使用したメニューと栄養のバランスを考えた食事内容になるよう努めています。また、水分量に関しても一日を通じて確保できるように努め、必要な方には、チェックリストを使用しながら支援しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時や毎食後に利用者に応じた声かけや支援を行うことにより、歯磨き、歯間ブラシ、口腔ケアを実施しています。また、必要な場合には、訪問歯科にて治療していただいています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄の間隔を把握して、適宜トイレへの誘導をすることにより、オムツやパットの使用を減らし、本人の排泄の感覚を取り戻せるよう支援しています。中には、ほとんど失禁無く過ごせるようになった方もいらっしゃいます。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。日中にはリハビリパンツやパットを使用しトイレで排泄ができるように支援している。夜間は、居室のポータブルトイレやおむつを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食物繊維などを多く含む食品や、乳製品・果物等を摂取できるよう心がけています。日常動作の中やリハビリ体操などの適度な運動を行っています。その上で、便秘期間が長い場合には、便秘薬等を服用して頂いています。	
			(外部評価) 毎日のように、お風呂を沸かし、少人数ずつゆったりと入浴できるよう努めています。その日の体調やバイタルを考慮して、できるだけ利用者の希望やタイミングに合わせられるように努力しています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日のように、お風呂を沸かし、少人数ずつゆったりと入浴できるよう努めています。その日の体調やバイタルを考慮して、できるだけ利用者の希望やタイミングに合わせられるように努力しています。	
			(外部評価) 週2回入浴することができ、利用者の体調等に配慮し、入浴を楽しむことができるよう支援している。入浴の苦手な利用者には、声かけや入浴の順番を変更するなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者は個々の生活習慣に応じた睡眠をとられています。困難な利用者には、日中に適度な運動をしてもらったり、個々に合った対応をしたりすることにより、よく休んでいただけるように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 主治医や薬剤師との連携により薬の内容を理解し、薬の袋に氏名と日付を入れ、間違いの無い薬の服用を支援しています。 また、症状の変化が見られるときには、医師への相談がすみやかに行えるように連携をとっています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯干し、食前食後の手伝い、掃除等それぞれの残存能力や得意なことにより役割分担し、喜んでいろいろな場面に参加できるよう努めています。 その為に、職歴や得意なこと、残存能力等を細かく把握し、その人に合った支援を行っています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調や気候を考慮しながら地域の行事への参加、住み慣れた場所への外出、銀行やスーパーなど、本人の希望に沿った場所への外出の支援を行っています。 お花見や遠足等の行事を通じて、他の利用者と共に出かけられる機会を作っています。	
			(外部評価) 日常的に事業所周辺を散歩している。利用者一人ひとりの外出希望を大切に、神社やお花見、道の駅などに遠出している。全員が外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者ご家族との相談のもと、各残存能力によって、金銭管理して頂いています。 金銭管理の難しい方については、おこづかいを預かり、スーパーなどに出掛けた際など必要な時に支援しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者本人がご家族や知人などに電話をされたり、手紙を書かれたり出来るよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングでは、特に季節感に配慮し、四季を表現した作品等を作成し、季節の花や食事を取り入れながら、五感全てを意識し、居心地の良い場所となるよう努めています。 また、居室やトイレ、浴室等の明暗や温度の変化があまり無いように努めています。</p> <p>(外部評価) 共有空間は毎日掃除しており、食後には利用者と一緒に床を清掃するなど清潔に保たれている。玄関やリビング、食卓には季節の花や利用者の写真が飾られている。利用者は自由にリビングでくつろぐことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) いくつかのリビングソファとテーブルがあるので、一人で新聞を読んだり、陽の当たる日中うとうとされたり、ふと思い出した話を利用者さん同士で話されたりと思い思いに過ごせるように工夫しています。また、職員は入居者それぞれの関係性を大切にしたり関わり方を心がけています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室には、出来る限り使い慣れた家具や持ち物、懐かしい写真などを置き、居心地の良い空間となるよう努めています。 また、テレビや書籍、趣味の物等利用者本人が居心地よく居室で過ごせるようにしています。</p> <p>(外部評価) 居室は利用者の使い慣れたテレビ、ソファやダンス、家族の写真、手作り作品などを持ち込んでいる。利用者が心地よく過ごせるように、カーテンやのれんは好みのものを使用している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者全体の安全のもとに、個々の残存能力を生かす動線を確認し、家具の配置や設備の工夫を行っています。 また、危険箇所と思われる場所には、クッションテープなどを使用し、安全性を確保しています。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102690
法人名	有限会社 優寿の里
事業所名	グループホーム 優寿の里
所在地	松山市堀江町甲207番地1
自己評価作成日	平成25年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 2 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの思いを大切に、笑い声が絶えないホームになっています。医療機関(主治医)とも綿密に連携をとっており安心した生活を送っています。入居者家族様とも連携をし本人のペースに合った、安心の出来る生活を確保しております。運営推進会議等では、質疑応答の時間を十分に取、何事も相談できる開かれたホームを実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は職員の笑顔が絶えない明るい雰囲気、利用者は職員と馴染みの関係を築き家庭的で穏やかな日々を過ごしている。職員は利用者本位を心がけた利用者のペースに合わせたケアに努めており、家族からの信頼を得ている。事業所の協力医と24時間体制で連携しており、毎月2回の往診を行っている。また、看護師が中心となり利用者の受診や健康管理をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 優寿の里

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)  
氏名 堀 恵子

評価完了日 平成 25 年 2 月 1 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 全職員で理念、基本方針を共有し、地域の中でその人らし生活が送れるよう努めています。尚家族様から信頼される開かれたホームを目指しています。</p> <p>(外部評価) 事業所の基本方針に沿って開設時に作成した理念を玄関やリビングに掲示している。毎月の職員会議で理念を振り返りケアを実践している。新任職員には、入社時に理念の説明をしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) お祭りの神輿に来て頂いたり、地元公民館での催物に参加したり、散歩時、近隣の方とお話をするなど、地域住民と交流を持つことで、地域から孤立することなく暮らしを続けられる様 地域交流に取り組んでいます。</p> <p>(外部評価) 周辺には工場が多く、住宅が少ないが家族や職員の情報から祭りの神輿を事業所に入れてもらったり町内運動会に参加している。日頃から事業所周辺の散歩時に出会った子供や工場の職員と挨拶を交わしている。事業所職員の中学生的子供と友人と一緒に訪問し交流している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を中心として、認知症の方の理解や、日頃の支援の方法などをご紹介します、地域貢献へとつなげています。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価) ご家族及び地域の方々等の出席を戴き、ホームでの状 況報告や、毎回議題を決め協議を行いサービス向上へ と繋げています。また、会議後半では何でも相談の出 来る時間をとり、重要な意見交換の場として活用して います。後日運営推進会議録を送付し、読んでいただ くことにより、内容の共有を行っています。</p> <p>(外部評価) 市職員、地域包括支援センター職員、利用者と家族等 の参加を得て、日時や議題を工夫して2か月に1回開 催している。家族から地域行事の情報を聞いたり災害 について意見交換を行い、サービスの向上に活かして いる。</p>	参加者が固定的であるため事業所の地域密着型サービ スとしての役割を果たすために、地域の多様な立場の 方の参加依頼を積極的に行うことが望まれる。また、 議題に外部評価のことを取り入れるなど、地域住民に 理解と支援を得られるよう取り組むことが望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	<p>(自己評価) 運営推進会議中質疑応答を行い、入居者家族様からの 率直な意見を出してもらい、市役所、地域包括セン ターの職員から新しい情報やアドバイスを戴いていま す。 また、電話連絡等により連携をとり、協力関係を築い ています。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議に参加をしてもらい顔馴染みの関係と なっており、事業所の現状や取組みを理解してもらっ ている。利用者等の相談を行うなど協力関係を築くよ う取り組んでいる。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 勉強会の実施、又サービス担当者会議時に話し合う事 で、身体拘束を行わない事を学習しケアの向上に努め ています。生命に危険が伴い、代替案の無い場合及び 緊急性のある場合はご家族様の意見等を聞き対応して おります。</p> <p>(外部評価) 身体拘束について内部研修を行うなど、職員は正しく 理解している。出入口にはセンサーをつけ、日中は玄 関の施錠をせず身体拘束をしないケアに取り組んでい る。隣接する24時間稼働している工場の職員の協力 をが得るなどして、外出する利用者の安全を確保して いる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会の実施、又サービス担当者会議時に話し合う事で、虐待の無いよう努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等への参加を行い各制度への理解を深めるように努めています。又制度の説明や家族様からの相談にも支援できるように努めています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時および改定時には、重要事項説明書にて十分な説明を行い、疑問点があれば、説明を行い理解・納得を図っています。また、記名・捺印にて契約を交わっています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時等個々の家族様より意見を頂いたり、運営推進会の場で話し合ったり、家族様から直接発言をして頂き運営に反映し又は検討を行っています。	
			(外部評価) 運営推進会議や訪問時に利用者や家族からよく意見や要望が出されており、それを運営に反映している。反映された内容については、家族との連絡帳に記録し報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員より、意見や提案を聞ける雰囲気を作る様に努めています。また、日常の情報交換や職員会議等において意見の収集を行っています。</p> <p>(外部評価) 代表者と管理者は、毎月開催の職員会議に出席して、職員から出される意見や要望を聞き取り、運営に反映させている。職員からはよく意見や気づきが出されている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員の状況を把握し、各自が向上心を持って働けるような職場環境づくりをしています。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 勤務状況や経験年数により、職員一人ひとりの力量を把握し、その人に合った研修参加の呼び掛けを行っています。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他福祉施設の研修会や、夏祭り・行事に参加したり、福祉関係者との座談会を行ったりしてネットワーク作りをしています。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前に当施設の見学・説明を行ったり、本人様と面会をし、要望や思いを受け取れるようにケアを行っています。特に入居当初は、各職員が対応時に気が付いた事など、管理者やケアマネージャーに報告を行い、その時に合わせたケアが出来るように結び付けています。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に家族様の思いをお伝えいただく為の話合いの時間をもち、要望に出来る限り応えられる支援方法の検討・相談を行える関係作りに努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時に以前にサービス受けていた関係者の方から、情報を聞き取りし、必要としている支援を見極めています。また、他のサービスが必要と認められる場合には、本人様や家族様と相談・対応しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常的に本人の出来る事、出来そうな事を見つけ一緒に行えるように支援しています。理念にもあるように(共に生きる姿勢)を大切にしています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様に言えない思いをお伝えしたり、近況報告を交え、家族様と本人様の橋渡しになれるよう、又家族様と一緒に今後のケアについて相談を行いながら支援を行えるように努めています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族様の協力を得ながら、会いに行ったり、年賀状や手紙などで、馴染みの方と連絡を取り合う事が出来るように支援しています。  (外部評価) 友人や知人に訪問してもらったり、電話や手紙での連絡が取りあえるよう支援している。馴染みの美容院やスーパーに家族の協力を得て出かけるなど継続的な交流ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 残された能力を発揮しながら、利用者様同士でコミュニケーションをとっています。職員は、その橋渡しになれるよう努めています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設や病院に移られるときには、日頃の状況等を記したアセスメントシートや電話連絡にて引継ぎを行っています。また、関係性の継続が必要と考えられる場合には、電話・訪問等を行い、本人ご家族の相談や支援に努めています。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人様の思い、本音を引き出せる様に個別ケアを出来る時間作りに努めており、要望や職員が気付いた事等は管理者またはケアマネージャーに連絡し、連絡帳やケアプランを通して、職員全員で把握し支援につなげるよう努めています。 (外部評価) 生活のかかわりの中でよく声かけをしたり、入浴時など利用者の会話の中で思いを把握するように努めている。家族から得た情報と合わせて、利用者の意向や習慣などを伝達帳に記録し、職員はそれらを共有して、無理をしないよう利用者本位の支援となるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所される時、又は家族様の面会時等、話し合える時間を持ち把握出来るように努めています。また、日常の会話の中から、生活歴を教えていただけることもあります。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別の記録や引継ぎにより、各個人の現状把握を行っています。また、日常の生活リズムや個人の体調・状態に合わせ、個別に支援を行うように努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員会議や担当者会議において、課題やケアのあり方について話し合いの場を作っています。また、家族の面会時には日々の状況を報告し、要望などを聞きながら介護計画の作成にいかしています。 医療面に関しては、主治医や担当看護師へ、報告・相談し、意見を頂いています。 (外部評価) 利用者や家族から聞いた意見や要望をもとにアセスメントし、担当者会議を行い介護計画を作成している。毎月のモニタリングを実施し、身体状況変化時や3か月に1回計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人の記録や連絡帳へ、各職員が日々の生活の中から要望・気づいた事を記入し、職員間で情報を確認し、柔軟に対応すると共に、ケアプランの見直しに活かされています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人様の現状を把握し、柔軟に対応を行っています。尚家族様との連携をとり、ニーズに合った多機能化の実現に努めています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 家族様の協力を得ながら、本人様を支える地域の公共施設やお店などを活用し、地域とのつながりを維持し、安全で豊かな生活が送れるよう努めています。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 医療機関、訪問歯科医院と連携をとっている。また、 協力医療機関とは24時間医療連携体制をとっており 特変時には指示を仰いでいます。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望を大切に、眼科や皮膚科等へ家 族の協力を得て受診しており、結果を記録している。 毎月2回の協力医の往診があり、受診結果を把握し、 適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協力医療機関の看護師へは、気づきや情報を伝え、特 変時には、連絡を取っている。また、月2回の受診時 には、健康チェックや相談に乗っていただいでいま す。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療機関と連携をとり、病状の確認をしながら、早期 退院に向け支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時から、重度化や終末期に向けた方針を説明し、 本人様の状態等により、主治医を含めたチーム支援を 行っています。	
			(外部評価) 入居時に、事業所の看取りの方針を説明している。重 度化した際には、繰り返し医師を交えて話し合いを行 い、利用者や家族の意向を尊重している。過去に2人 の看取りをした経験があり、利用者の個別のマニユ アルを作成し支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 資料や勉強会等を通じて、全ての職員が応急手当や初期対応を、落ち着いて実施できるよう努めています。また、避難訓練時に、応急手当の再確認を行いました。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 運営推進会議や避難訓練、勉強会等により、災害時の避難方法や連絡体制を検討・訓練しています。また、周辺企業（24時間営業）へ災害時の協力要請を行っており、連絡体制を整えています。  (外部評価) 事業所には、スプリンクラーや火災報知器、通報機を設置しており、緊急時の連絡網を作成している。年2回防災避難訓練を実施し終了時には反省会を行っている。災害に備え、水や食料などを備蓄している。利用者一人ひとりの写真つき個人ファイルを作成し、24時間稼働の隣接する工場に災害時の協力を得ている。	災害に備え、昼夜を想定した自主的な避難訓練を計画的に行うことが望まれる。また、運営推進会議で地域の自主防災組織の有無を確認することが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 居室前には一人ひとりの好みに合わせた色の違うのれんを掛ける事により、居室の目印、又個々の空間作り・戸を開けた時の目隠しになるように配慮しております。また、一人ひとりの背景や想いを考慮し、誇りやプライバシーを尊重した言葉かけを行っております。  (外部評価) 書類の管理を徹底しており、議事録の個人名についても特定できないように配慮している。利用者には人生の先輩として接し、トイレ誘導時及び入浴時には誇りやプライバシーを損ねないよう気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個々の状態に合わせ自己決定出来る支援を行えるよう努めており、本人の希望を引き出せるような関係作りや積極的な働きかけを行っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常の業務を一人ひとりのペースに合わせてることにより、本人様の希望に沿った支援となるよう努めています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 日常的に身だしなみには十分気を付けています。本人様の気に入った装飾品を身につけたり、お化粧品をしたり、家族様の協力を得ながら、美容院へパーマをかけに行かれる方もいらっしゃいます。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員と共に食事を食べることにより、おいしかった喜びや調理方法の工夫、好みなどを聞かせていただいています。また、食事の下処理、食事作り、配膳、下膳、食器洗い等も共に行っています。	
			(外部評価) 畑の収穫物やいただき物など旬の野菜を、利用者と一緒に調理し食事をしている。利用者の好みを取り入れて誕生日や行事ごとにメニューを工夫している。毎月の体重測定と半年ごとの血液検査を目安として、栄養が偏らないように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスや、各自の摂取量を考えてメニュー作りを行っています。水分摂取量を各時間(食事時・おやつ時)毎に記録し、1日の合計量が即時に分かるようにしています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとりに歯磨きの声掛けをし、同時に義歯等の調子を聞きケアにあたっています。また、毎晩、入れ歯洗浄剤にて口腔内の清潔を保持できるよう努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 個人記録やチェック表により、排泄パターンや回数を把握しトイレへ誘導を行い排泄の失敗やオムツの使用量を減らすよう支援しています。必要な方には、尊厳を考慮しながら、夜間のポータブルトイレの使用やトイレへの付き添い介助を行っています。</p> <p>(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。日中にはリハビリパンツやパットを使用しトイレで排泄ができるように支援している。夜間は、居室のポータブルトイレやおむつを使用している利用者もいる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 毎朝食には、必ずヨーグルトを摂取する献立にし、食材には繊維質の多く含まれている食品を使用する様心掛けています。また、日常生活での運動や水分の補給により、自然な排便が出来るよう努めています。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 本人様の希望に合わせ、入浴のタイミングや温度などに配慮しています。また、1日の入浴人数を少人数にすることにより、ゆったりと入浴できるよう支援しています。</p> <p>(外部評価) 週2回入浴することができ、利用者の体調等に配慮し、入浴を楽しむことができるよう支援している。入浴の苦手な利用者には、声かけや入浴の順番を変更するなど工夫している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 各自のペースに合わせた、休息や睡眠が取れるよう、言葉かけやパジャマへの着替え支援を行っております。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬剤師より薬を受け取る時、説明を受けて薬の目的や副作用の理解をし、症状の変化時には、主治医に連絡し対応しております。特に、お薬の変更・追加があった時には、注意して様子観察を行っております。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 各自の負担にならない様に得手不得手を理解し役割を持ってもらったり、日々楽しく過ごせる様に支援しております。特に家事（炊事・洗濯・掃除）においては、各役割として手伝っていただいています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調や状態に応じて、買い物・ドライブ・外食・遠足等、実施しております。 また、天候の良い日には、周辺を散歩したり、家族様の協力を得ながら本人様の希望の場所へ出かけられるよう支援しています。	
			(外部評価) 日常的に事業所周辺を散歩している。利用者一人ひとりの外出希望を大切にし、神社やお花見、道の駅などに遠出している。全員が外出できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭トラブルが多い為、ご家族様とも相談のうえ個人での所持は行っておりません。買い物時等は立替で、その都度支払ってもらう支援を行っております。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人様の希望時には、電話・手紙等の連絡が出来るようにしています。年賀状・暑中見舞いは、ご家族様に発送するように支援しております。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) リビングには、常に季節を感じられる様に、生花、飾り物を置いています。また、温度・湿度の管理、明るさの調整などにより、ゆったりと安心できる空間作りに努めています。</p> <p>(外部評価) 共有空間は毎日掃除しており、食後には利用者と一緒に床を清掃するなど清潔に保たれている。玄関やリビング、食卓には季節の花や利用者の写真が飾られている。利用者は自由にリビングでくつろぐことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングでは、思い思いに過ごしやすい場所や気の合う方同士でお話のしやすい、位置や空間を意識しながら支援しています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室は安全性や利便性を確保しながら、思い思いのレイアウトにし、家族様の協力を得、昔からの馴染みの物品を持ち込み、心落ち着ける空間になっています。</p> <p>(外部評価) 居室は利用者の使い慣れたテレビ、ソファやダンス、家族の写真、手作り作品などを持ち込んでいます。利用者が心地よく過ごせるように、カーテンやのれんは好みのものを使用している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 本人様の歩行状態や視力、認知機能の配慮し、出来ることを自立して行えるよう支援しています。また、安全歩行の為に、廊下には、手すりを設置し、歩行時に危険となる物は排除しています。</p>	